

森林科学科2年生の春の総合実習

at 支笏湖周辺 (12 June, 2007)

森林科学科に移行してはじめての野外実習です。造林学研究室が中心に担当する2日目は、森林の中を歩き、樹木の名前を覚え、森林の動態を学びます。



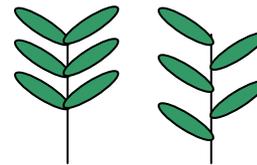
巨木の森にふさわしい大木



班に分かれて種同定の説明



ハリギリの太い幹



葉の形だけが樹木の見分け方じゃないよ。木によって、葉の付き方が違うんだ！

2日目の午前は、支笏湖畔の巨木の森で、樹種同定のメニュー。

各班に分かれて、樹木の名前、同定(判別)の仕方を覚えます・・・葉の形、葉の付き方、枝の分岐の仕方・・・よく見ると、樹種によって、いろいろチガイがあるんです。

2日目の午後のメニューは、森林の動態について。

森林は動いています・・・長い時間をかけて・・・樹木が成長して、衰弱・枯死して、種子が発芽して・・・。ときには台風などによる大きな攪乱が、森林の動態に変化をあたえます。

今年は、2004年の18号台風で壊滅的な風倒攪乱を受けた人工林跡地で観察をしました。森林の構造、樹木の形、・・・などで、台風の被害の受け方が違うことや、風倒跡地に発芽する樹木の種類とその特性について、大学院の先輩や先生方からレクチャーを受けました。



院生2年河村君による風倒跡地の実生更新調査結果のレクチャー